

## 本年度の重点に対する評価

本年度の重点	1	児童一人ひとりを大切にし、互いに認め合える温かい人間関係を育む実践に全校で取り組む。
目標（評価規準）		児童一人ひとりを大切にし、認め合える人間関係の育成に全教職員で努める。
重点に係る現状 設定理由		児童一人ひとりの個性を十分理解し、一人ひとりに応じた支援と心の教育を進めるとともに、「チーム旭」として、全教職員で全児童の指導に努めたい。また、児童が互いを認め合い、思い合える学年指導の工夫・改善を図りたい。

評価資料	評価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	「一人ひとりを大切にし、個に応じた指導をしている」「よりよい人間関係の構築、いじめ・不登校の未然防止のため、児童が互いに高め合えるような学級経営・授業・行事に取り組んでいる」「学校生活・学習における児童の様子に気を配り、児童との信頼関係の構築に配慮している」のアンケート項目が概ねよい評価である。
各アンケート等の結果	児童アンケート「友達の話をよく聞き、良さを認めようとしている」「困った時は学校の先生に相談している」「学校が楽しい、旭小がすき」保護者アンケート「学校はよりよい人間関係の構築やいじめ根絶のために授業や行事を工夫している」「学校は、子どもたちに寄り添いながら信頼関係を構築するよう努めている」の項目が概ねよい評価である。
自己評価結果 (見解と改善方策)	一人ひとりを大切にし、互いを認め合える温かい関係作りを目指し、「一人ひとりを大切にし、個に応じた指導」や「児童が互いに高め合えるような学級経営・授業・行事」に取り組んできた。児童指導の課題についても、教職員全体で情報共有し、児童指導や教育相談コーディネーターを中心にSCや巡回相談、外部機関と連携し、適切な対応を検討し実施することができた。不登校やいじめ対応は、未然防止に努めるとともに、案件が起きた時は早急に本人やクラスの状況確認をし、教職員全体で適切な対応の共通理解を図り、保護者に状況の確認や対応の説明をすることで保護者との連携を図り、解決につなげることができた。今後も児童指導対応については、次の学年に確実に引継ぎ、情報を共有していくことや児童指導部や教育相談コーディネーターを活用し、組織的に取り組むことで、児童の健全で温かい人間関係を育んでいきたい。
学校関係者評価結果	子どもたちが「みんなちがってみんないい」という認識をもち、一人ひとりの違いを大事にして、その子の良いところを伸ばしてほしい。楽しく元気に学校生活を送れるよう、人とのコミュニケーションを大事にしてほしい。
最終改善方策	一人ひとりを大事にし、子どもたちが認め合える学校・学級づくりを進めていくために継続的に下記の3点に取り組んでいきたい。 ○全教職員で全校の子どもを育てていくという共通認識。 ○家庭や外部機関との連携。 ○多様な課題に対応するための情報収集。

本年度の重点	2	基礎学力を定着させ、確かな学力の向上を目指す。
目標（評価規準）	学習習慣の定着に努め、自ら学ぶ姿勢を身につける。	
重点に係る現状 設定理由	教職員一人ひとりが自律して指導力向上を目指し、校内研究の推進し、探究的な学びにつながる学習活動の工夫や改善を図りたい。また、児童に学習習慣をつけさせるため、家庭学習の工夫を図りたい。	

評価資料	評価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	「基礎学習定着のため日常的に具体策を講じている」の項目においては概ね目標が達成できていると評価している。「認め合い、高め合いのため、児童が関わり合う授業に取り組んでいる」「家庭学習を工夫し、学習習慣の定着を図っている」からは、自分たちの指導について少し厳しく評価している様子がみられる。
各アンケート等の結果	児童アンケート「勉強したことがわかる」は概ね良好であったが「話し合い活動を進んでいる」は少し厳しい評価であった。保護者アンケート「学校は、授業等を工夫して学習内容の定着に努力している」「学校は、子どもたちが互いに認め合い高め合えるような授業の実施に努めている」の項目において概ね良好であった。
自己評価結果 （見解と改善方策）	昨年度から取り組んでいる校内研究「すすんでかかわり、高め合う子」では、「総合的な学習の時間」「生活科」を通して、授業研究を進めた。学級担任だけでなく、専科や養護教諭も授業を行い、全教員が研究授業を行うことで、授業改善に取り組んだ。また、研究授業だけでなく、日常的な授業に関しても職員室の中で、自然に教材の相談が出てくるなど、子どもが夢中になる単元づくりをめざして、全教員が日々教材研究をすすめている姿勢がみられた。今年度のアンケートから課題として、児童同士で学び合う「話し合い活動」の場の設定はまだ少ないように思われる。教師主導ではなく、児童が主体的に学べるように、来年度も探究的な学びにつながる学習活動に取り組んでいけるよう、教職員が相互に刺激し合い、研鑽を積み、指導力の向上に努めたい。また、家庭学習については、学校から出る宿題＝家庭学習と捉えられている所があるので、児童が自発的に学ぶ家庭学習の工夫を家庭と共有していきたい。
学校関係者評価結果	最近の子たちは、知識はあるが、知恵がない感じがする。言われた事はできるが応用ができない。社会に出たときに大事になることを学ばせてほしい。
最終改善方策	教職員の共通理解のもと、家庭と連携し下記の3点について継続的に取り組みたい。 ○地域素材を生かして探求的な学びにつながる学習活動の工夫・改善。 ○子どもたちが主体的に学ぶ力や多様な課題に対応できる力の育成。 ○家庭学習の取り組み方について家庭との共通認識と家庭学習の充実。

本年度の重点	3	学校・家庭・地域との連携に努める
目標（評価規準）	学校・家庭・地域の連携した教育活動を展開する	
重点に係る現状 設定理由	保護者・地域の方々の協力を得ながら、より良い学校環境づくりに努めたい。また、家庭・地域に学校での教育活動の様子を積極的に発信し、学校理解を深めたい。	

評価資料	評価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	「授業参観・保護者会・個人面談、日常的な連絡等で児童の成長のために家庭と情報を共有し、共通理解に努めている」「保護者や地域住民に誠実に対応している」の項目は、各種通信や日常のこまめな連絡等で家庭や地域との連携を大切に心がけており、概ね良い評価となっている。
各アンケート等の結果	保護者アンケート「学校便りや学級通信等で学校の様子を伝えるよう努めている」「授業参観・保護者会・個人面談、日常的な連絡等で児童の成長のために家庭と情報を共有し、共通理解を深めている」「保護者の相談に誠実に対応している」の項目において90%前後の達成率であった。
自己評価結果 （見解と改善方策）	保護者アンケートの達成率が高かったのは、コロナ5類移行にあたって、学校の教育活動も制約がなくなったため、地域の方や保護者を講師として招いて授業を行ったり、地域素材を教材として学習計画を立て、実際に現地に見学行ったりと教育活動で地域との関わりが増えたこと、さらに、保護者の方に学校の様子をみていただく機会も増えたことがアンケートの結果に反映されていると思われる。また、旭小の特徴でもある多数のスクールガードの方との連携は、今年度も引き続き大切にしてきた。スクールガードの方から学校に下校時の児童の様子を見て「いじめがあるのではないか」という情報も頂き、早急に対応することもできた。今後も、保護者・地域の方のご理解・ご協力を得ながら、教育活動を進めていき、家庭・地域とのより良い関係を築いていきたい。
学校関係者評価結果	登下校の安全指導を含め、地域全体で児童の成長を見守っていききたい。これからも学校・保護者・地域が連携をして協力体制をとっていききたい。
最終改善方策	地域・家庭と連携を深め、子どもたちの健やかな成長を一丸となって進める「地域の学校」を目指すために以下の3点に取り組みたい。 ○学校行事や学校公開、授業参観等の活用。 ○学校からの情報を積極的に発信。 ○学校評価アンケートの結果を保護者会等でフィードバックし、学校経営改善に生かす。